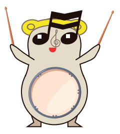
主催 MMF実行委員会／音楽好きな友の会
共催 Motton Club
後援 中原区／「音楽のまち・かわさき」推進協議会／（公財）川崎市国際交流協会／（公財）川崎市生涯学習財団／（公財）かわさき市民活動センター／かわさきFM（79.1MHz）／（公財）現代人形劇センター／人形劇団ひとみ座
協力 モトスミ・ブレーメン通り商店街振興組合／モトスミ・オズ通り商店街振興組合／井田中ノ町商栄会／木月一丁目町会／木月二丁目町会／木月三丁目町会／木月四丁目共和会／井田共和会第2町会／井田共和会第3町会／井田共和会第4町会／ソウリーヴ・ミュージック・スクール／島倉学ミュージックスクール／ムールドラムス／坊野称央己ヴァイオリン教室／ウチダインテリアデザイン／大塚電化サービス／横浜・カンファー・ツリー／ Mマガジンサポーター各位
2025年4月現在

お問合せ：mmf.info@ontomo.jp

音楽好きな友の会
https://ontomo.jp/

MMF 全39団体、演奏家157名の最多応募者が!!

MMF-2026も「生楽器の演奏をぜひ聴いて貰おう」とアコースティックギターから、トランペット、トロンボーン、サックス、フルート、ヴァイオリン、ピアノ、そしてコーラスなど。もちろん歌とエレキギターサウンドで会場を盛り上げてくれる団体も有り、総勢14団体演奏家90名の皆さんの出場です。ミュージシャンと運営を初コラボする今回のMMF。「ねこつきBAND」がロビーで展示、会場で進行など担当し老若男女の皆さんと楽しめる手作り音楽祭ですのでベビーカーや車椅子の皆さんもぜひご来場お待ちします。



第5回元住吉ミュージック・フェスティバル実行委員会

A Free Magazine that Promotes Regional Revitalization through Music
Mマガジン
2026年3月16日号
2026年2月16日発行
（毎月16日発行）
第133号
発行・編集人：**塚田親一**
制作・編集：藤田順治／大場明弘／江川公美
デザイン・表紙写真：岩崎太一
発行：音楽好きな友の会
川崎市中原区木月2-21-32
TEL 090-9398-2889
2026-2-16-800 Printing IT

M MAGAZINE

●Motosumiyoshi●Music●Mate●Meet●Memories

音楽好きな友の会
http://ontomo.jp/

後援
●川崎市中原区
●「音楽のまち・かわさき」推進協議会
●公益財団法人 川崎市国際交流協会

2026
3
March

特別付録
第5回 元住吉ミュージック フェスティバル
元住吉から楽器や歌声が聞こえる!
出演団体 プロフィール紹介

2026年
3月第207回
はお休みです。

音友レコード倶楽部

レコードコンサートのプログラムは
・Light music/軽音楽の集い
＆ Jazz Date/ジャズの集い
・持ち寄りタイム/持参レコード/CDを楽しむ集いで開催中

連載13 ヴァイオリン王子が贈る "Buono!"なヴァイオリンのお話
演奏家と楽器との出会い

Bouno Naoki
ヴァイオリン奏者　坊野 称央己

ヴァイオリンは、ただの道具ではありません。

それは演奏家にとって「声」であり、「もうひとりの自分」であり、ときに人生の伴走者でもあります。どれほど優れた技術を持っていても、楽器との相性が合わなければ、その人の音楽は本来の輪郭を持ちません。だからこそ演奏家は、良い楽器を求め続けます。その出会いは、往々にして理屈ではなく、直感によって訪れます。最初の一音が空間に立ち上がる感覚。そこに「これは違う」と感じる楽器もあれば、「あ、知っている声だ」と思う楽器もあります。

私自身も、そうした出会いを経験しました。早稲田で開催されていた日本人作家の新作展示会で、名古屋の弦楽器工房 studio mora mora を主宰する大橋徹さんと出会いました。並んでいたのは、彼が2025年に完成させたガルネリモデルの新作。その一本を試奏した瞬間、音が「鳴る」のではなく「語りかけてくる」感覚がありました。力を入れなくても深く響き、弱音は遠くまで届く。温かな音色は「自然にしっくりきた」という感覚でした。

ヴァイオリンは木でできています。そしてその木は長い時間を生きてきた存在であり、作り手の手を経て、演奏家の時間を吸い込みながら、さらに変化していきます。楽器は完成した瞬間がゴールではなく、弾かれ続けることで初めて「その人の音」になっていきます。だから、演奏家と楽器の関係は、所有ではなく対話に近いと私は思います。

今日の自分の気持ちが、そのまま音に映る日もあれば、楽器に導かれて思いがけない表情が生まれる日もある。互いに影響し合いながら、音楽は少しずつ深まっていきます。

運命の楽器とは、完璧な楽器ではありません。いまの自分にとって、最も正直に響いてくれる存在を指し、その出会いは、演奏家の人生を静かに、しかし確実に変えていくものと思います。

私の連載は今回で一区切りとなります。ご拝読いただきありがとうございました。

13歳からヴァイオリンを始め上野学園大学音楽学部を卒業。アーティストサポートやイベントに多数出演する他、武蔵小杉・元住吉エリアにて出張レッスンやオンラインレッスンも展開中。

Violinist・坊野称央己
OfficialSite
naokibono-violin.com

連載08 世界旅と音楽～経験を音にする
世界一周クルーズ

ギタリスト：Yuta Tanaka

みなさんこんにちは、ギタリストとのYuta Tanakaです。今回は前回の続きで2023年クルーズ中につくったアルバム「Alone on blue」について書いていきたいと思います。まずクルーズ中に船内で録音しアルバムを作るが一つの目標でした。録音はスマホにマイクをつけた簡易的なもので（これが割といい音します）、日々浮かんだアイディアを曲にするためにいろいろ試してました。当初はソロギターのみでアルバムを作ろうと思っていましたが、クルーズが進んで行くにつれヴァイオリニストの方と演奏する機会が出来るようになりました。そこでせっかくだからヴァイオリンの曲を書いてアルバムに参加してもらおうと思うようになりました。自分はギタリストですが、自分は作曲家でありたいと思っています。頭の中ではいろんな楽器のイメージがあり、例えばヴァイオリンやサックス、フルート、トランペットなど様々な形で音が鳴る時があります。そんな長年のアイディアを実現出来るチャンスでした、1番最初にヴァイオリニストに書いた曲「Empty Ocean」はアルバムになくてはならない曲になりました。クルーズ最後の方ではこの曲で涙してくれるお客様もいらっしゃってとてもうれしかったです。日々切磋琢磨する中で下船の日ギリギリまで録音を続けました。連載で想い出コラムを書いてきましたが、この号で終わりになります。そんな船での生活で生まれたアルバム「Alone on blue」を是非一度聴いて頂けたら幸いです。アマゾンにてCD販売もしています。

また何処かのライブ、ストリートなどで皆様とお会いできる日を楽しみにしています。

▲船でうまれたアルバム「Alone on blue」

Instagram
@yutatanakamusic

https://www.youtube.com/@YutaTanakaMusic

川崎市国際交流センター

2025年度　地球市民講座

パレスチナ・イスラエル問題の本当の解決とは何か

映画「ガザ=ストロフーパレスチナの吟（うた）」の上映と早尾貴紀氏（東京経済大学教授）の講演

©Jaber Jehad Badwan, 2025

- ●日時：2026年3月14日（土）午後1時～4時（開場12時～）
- ●会場：川崎市国際交流センター ホール
- ●参加費：500円（当日、会場で現金払い）
- ●定員：200名（先着順）
- ●申込方法：QRコードから申し込む
- ●主催：かわさき国際交流民間団体協議会
（公財）川崎市国際交流協会

詳しくはこちら▼

●お問い合わせ
公益財団法人川崎市国際交流協会
TEL 044-435-7000　E-mail:kiankawasaki@kian.or.jp
ホームページ https://www.kian.or.jp/

川崎市生涯学習プラザ

第158回ランチタイム·ロビーコンサート

出演：**椎野みち子／クラシックギター**

日本・スペインギター協会常任理事など務めるかたわら、後進の育成に携わっている。
自作曲集など通算２０冊を出版。CDアルバム３枚をリリース。

●予定曲目
・ルゴンドリエ（メルツ）
・秋桜
・いい日旅立ち
・La canzone e（自作）
・孤月（自作）
・雲七変化（自作）
・ハンガリー幻想曲（メルツ）

- ●日時：2026年3月12日（木曜日）
12:00開場／12:10開演／12:40終演予定
- ●料金：無料
- ●場所：川崎市生涯学習プラザ・１Fロビー

●お問い合わせ
（公財）川崎市生涯学習財団 総務室 総務係 ロビーコンサート担当
TEL 044-733-5560　E-mail: concert@kpal.or.jp
川崎市中原区今井南町28-41
ホームページ https://kpal.or.jp/

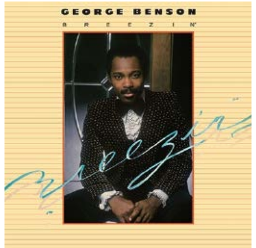
音楽好きな友の会（音友会）

ギターとボーカルの二刀流、ジョージ・ベンソン誕生

Fujita Junji
音友レコード倶楽部：藤田 順治

ジャズ・ギタリスト兼R&Bのシンガーであるジョージ・ベンソンは1943年3月22日にアメリカ合衆国ペンシルベニア州ピッツバーグに誕生。当初はジャック・マクダフのバンドに加入しソウル・ジャズを演奏。インスメンタルを中心としたギターによる流麗なフレージングでウェス・モンゴメリーの系譜を受け継ぐオクターヴ奏法とその発展形であるオクターヴ+五度奏法が特徴だった。その後、マイルス・デイヴィスが初めてエレクトリック・ギターを使用したアルバム「Miles In The Sky」に参加。さらにその後CTIレーベルにおけるフュージョン・サウンドなどを経て現在に至っている。

グラミー賞を受賞したアルバム「Breezin'」や、クインシー・ジョーンズがプロデュースした「Give Me The Night」など、その歌声も注目が集まるようになった。



▲Breezin'/George Benson

Mマガジン表紙写真撮影ぼや記帳

撮影担当：イワサキ タイチ

今回のモデルさんはなぜ後ろ姿!?風景を撮りたかったのに、写り込んでしまった通行人の方....ではなく、今回の主題は着ているブルゾン!の背中の文字! MMFのロゴが主役なのです!だのに、後ろ向いてるモデルさんはなんと、「ブルースロックピン芸人」で活躍しているギター奏者の永瀬晋氏。なんと勿体ない!なに、知らない?知らざあ言ってきかせやしょう!いや字数足りない...

音友レコード倶楽部PR動画!
「音友レコード倶楽部」をわかりやすく説明したPR動画を是非ご覧ください。

常連の参加者との共同製作です。
撮影、編集はギター奏者の永瀬晋が担当。
新規参加の前に、ぜひご覧ください。
YouTube配信中。

連載19 オカリナに誘われて
好きなのに怖い2

Kotanagi Emiko
小棚木 恵美子

私は毎年やりたい事リストを年の初めに書き出しています。ある年はオープンマイクに沢山参加しようと目標を立てました。オープンマイクというのは会費を払って、順番に持ち時間中に自由におしゃべりしながら好きな曲を演奏して行くという、スタジオとか、音響設備のあるカフェなどのイベントです。聴くだけのお客様も入れます。そこに参加すると、個性あふれる方たちが、楽しそうに演奏や歌・ダンス・読み聞かせ　色々なパフォーマンスを披露してくれます。そして、おしゃべりも皆さんとっても面白い。そこで、楽しい面白いと感動できる私は、きっと以前と変わったからだと思うんです。前号でお話ししたように昔なら、きっと自分の演奏前に来て、すぐ帰ってしまったかもしれません。型にはまった頭では、個性あふれるものに拒否感を抱いてしまうと思うんです。だから、良いところを見られる今の私は幸せです。だから、人前に立っても　みんなとどんな楽しい時間を過ごせるのか楽しみになれる。

この良いところ探しの思考から生まれる良い所は、他の人の演奏をその人の個性を感じて受け止められることと、もう一つ自分の演奏に対しても、私も個性を出して演奏できてるなって認められるという素敵な思考につながるところです。今まで成長したい上手くなりたいと思って練習を続けて来ました。そうすると、自分の出来ないところを良くするために、自分に対してダメ出しをしてしまう頭になってしまいます。クリアしたことを褒める事もなく、新しい課題を追い続けていく。だから、以前の私は人前で演奏するのがあまり好きではなかったんです。自分の失敗も言わなきゃわからない様なことまで、自分にダメ出しして気が滅入る。だけど演そうする事は好きで、上手くなりたい。なんだか負のループに入り込んでいました。

私の思考が変わったから見えてきたこと、そうすると、周りの人はどう思って演奏しているのか気になってきます。演奏することを楽しんで欲しいと　とっても思っているので。あなたは、好きな事を楽しめていますか?

▲対バンLIVEの皆さん

小棚木恵美子プロフィール
洗足学園短期大学音楽科卒業。オカリナ講師。「思い通りに演奏できる!オカリナ上達のポイント50」監修出版。神奈川・東京を中心に演奏活動しています。
【催事の予約受付　090-2436-5985　花】
●毎月開催「オカリナカフェ」
（オカリナ体験・レッスン）
・日時:第2・4週(水)、(金)①14:00 ②15:00
・会場:コーヒースポット「ライフ」(武蔵中原駅近く)
一度どんな感じか吹いてみたいという体験でも、長くオカリナ吹いているけど、今更聞けないお悩み事もお気軽にご相談ください。
Instagramも是非のぞいてください
https://www.instagram.com/emiko55395/
Instagram
@emiko55395

連載36 脱線ニューヨーク滞在記
思い出し寄り道編の寄り道　ニューオリンズ

Demura Katsuaki
出村 克明
パーカッション奏者
コンセプチュアルアーチスト
現代アートでは空気、無を梱包して送るエアメールアートを展開している。

今回のニューオリンズ編、いつもの通りで行き当たった事を文字通り行き当たりばったりのそこやそれに纏わる話など綴り始め、ブードゥー教やゾンビの話になり小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)に行き当たりました、そして彼とニューオリンズの関わり等を書こうとした矢先に前号でも書きましたが、彼をモデルにしたNHK朝ドラ番組「ばけばけ」の事を知り、それから何回か見ました。こんな関わりがあったのですごく興味があり面白いですね。何話目か分かりませんが初めて見たシーンはヘブン(八雲がモデル)がお寺の住職から聞かされる、毎夜水飴を買いに来る幽霊の話でした。丁度その時書いていたのが偶然にもお墓にもつながる話だったので、前号 中ほどに書いた(脱線‥‥観光客が大勢来て水飴でも売りますかね)のところ最初綿飴屋と書いていたのですが急きょ水飴に訂正した訳です。この番組'25年9月から始まったそうですが、僕がニューオリンズへ旅したのは7月、本編を書きだしたのが8月から、そしてまたまた偶然にもこの旅行に一緒に行った娘のジェンがワシントン州の最初に行った大学で小泉八雲の曾孫さんの講義を受けていました。と当時聞いていたので尋ねると小泉 凡さんでした。検索するとワシントン州での記述はありませんでしたが日本の民俗学者、大学教授、島根県松江市の小泉八雲記念館館長をしているそうです。そして松江市とニューオリンズ市は小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)ゆかりの地という縁で「友好都市」提携を結んでおり、姉妹都市として交流しています。

▲小泉八雲とセツ

小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)は1890年日本に来る前、新聞記者として1977年(明治10年)から1887年(明治20年)10年間ニューオリンズに滞在しクレオールや黒人の音楽、宗教など様々な文化を取材し、その中にはブードゥーやゾンビの事など霊的なものやミステリアスなものも取材対象となり興味を寄せたと思われます。それがきっかけになったのか日本に来る直前の1887年カリブ海のマルティニーク島(ハイチ等と同じ様にアフリカからのブードゥー教文化圏)を訪れ約2年間滞在し、そこに住んでいる人々からゾンビの伝承する話等を取材し紀行文「仏領西インドの二年間」を出版し、その中に書かれている「ゾンビ」という言葉や概念は"八雲"によって世界で初めて記述として紹介されました。それと1984~1985年に行われたニューオリンズ万博で日本の文化にも触れ、さらにその頃英訳の「古事記」を読んで日本への興味が、そして奇跡的にかお導きか古事記の舞台でもある出雲の国・松江にそこで聞く神話や昔話、そしてそれ以上に多くは妻となるセツから日本古来の民話は元より怪談奇談、幽霊話等の数々を八雲は聞きました。このセツとの出会いがあってこそ八雲の代表作「怪談」に繋がる訳で縁なのですね。森羅万象全てが縁と云えば縁なのでしょうがこの二人の縁がなければ当然「ばけばけ」もなかったですね。ニューオリンズやマルティニーク島での取材したブードウー教やゾンビの話等も重なり合っていたと思いますが行きついた処が日本。アフリカの神話はニューオリンズやマルティニーク島を経てのフュージョン。「耳なし芳一」の奏でる枇杷の音に覚まされた平家の亡霊がゾンビの如くよろよろと立上り鎧の擦れ合う音が遠くから聞こえ風に舞う笛の音それにジャンベの響きが。って感じ妄想しちゃいますね。ニューオリンズやマルティニーク島で聞いた話は「怪談」などの話にエッセンスの一つとして味付けされていると思います。

▲琵琶法師

余談:八雲は東大で明治29年から約8年間英語講師を務め学生に人気があったそうですが退職し後任として「夏目漱石」が就任し後を引き継ぎました。日本に訪れた「八雲」洋行帰りの「漱石」これも面白い繋がりですね。そして二人は全く違う視点で共通のテーマ、題名の『心』を発表してます。

▲琵琶

最近ゾンビと云う単語がよく出てきます。これまで述べた‥‥‥ 次号へ

特別寄稿　Conversations　音友レコード倶楽部・音楽談議

1970年代の鬼才アル・クーパーその1

Fujita Junji
DJ担当:藤田 順治

私の場合、中学まではフランシス・レイ、ポール・モリアなどのイージーリスニングや映画音楽などソフト・ミュージックを中心に聴いていた。

その後、高校からはクラスメートの影響やラジオでかかっていたヒット曲を聴くことにより洋楽ロックに興味を持ちLPを中心に買いそろえて聴く様になった。特にミュージシャン同士の繋がり、経歴等に興味を持ちいろいろなジャンルのLP(後にCD)を少しずつ買い足していった。

今回、その中で特に興味をもっていたミュージシャンの足跡を少しずつ紹介していこうと思う。

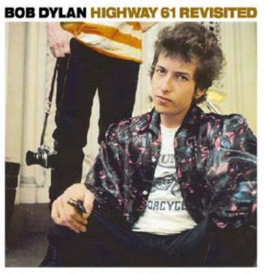
まずはアル・クーパーから‥‥。

後にBSTの初代リーダーとなる鬼才アル・クーパーはボブ・ディランのアルバム「Highway 61 Revisited(邦題:追憶のハイウェイ 61)」に収められている名曲"ライク・ア・ローリング・ストーン"が本格的なデビューとの事。たまたま偶然にこのアルバム当初のプロデューサーで友人であったトム・ウィルソンに誘われギターリストとして参加する予定であった。彼はマルチミュージシャンでギター以外にキーボード(こちらがメイン)も演奏することが出来た。

しかし、ディランが連れてきたポール・バターフィールド・ブルース・バンドのギターリスト(マイク・ブルームフィールド)が隣に座り、挨拶後、ギターをつないでウォーミングアップを始めた。その男が素晴らしいギター演奏するのを聞いて、アルは驚くと同時に意気消沈したらしい。

その為、急遽ハモンドオルガンの前に座り、奇跡的にバックで奏でる素晴らしいメロデイを思いつき、その場を何とかやり過ごす事に成功した。最終的にはボブ・ディランからその時点でゴー・サインをもらい、アルバムの他の曲にも加わるようにと言われた様である。また、この時ディランはベーシストを探しており二人ほどセッションに参加させたが気に入らなかった。その為、数日後、クーパーはディランに頼んで馴染みのベーシストであるハーヴィ・ブルックスを呼んで雇ってもらった。アルはこのアルバムにおいてディランに和み良いフィーリングを持ち合わせている人物は彼しかいないと思っていたそうだ。

次の日、なぜかはわからないが、プロデューサーはウィルソンからボブ・ジョンストンに替わり、その後ウィルソンがディランのプロデュースに関わることはなかった。また、この数年後、マイルス・デイヴィスは名盤「Bitches Brew」でこの時のベーシストとなったハーヴィ・ブルックスを使うことになる。



▲Highway 61 Revisited/Bob Dylan

連載10 サックスと私
自分の事をAIに聞いて見ました!

Yonezawa Mitsugu
サックス奏者:米澤　貢

「歌うストリートサックス」の最大の魅力は、A-sax Yoneさんの奏でるサックスの音色に「歌」を感じさせる表現力と、それによって生み出される感動的な空間にあると言えるでしょう。

★ 魅せる「歌う」演奏スタイル
A-sax Yoneさんの演奏は、楽曲のメロディーをただなぞるだけでなく、まるで人が歌っているかのように情感豊かに表現されることが魅力です。この「歌う」ような演奏は、聴く人の心に深く響き、感動を呼び起こします。
*感情豊かな表現:聴く人が歌詞を思い浮かべたり、曲の世界観に浸れるような演奏。
*観客との一体感:路上という開かれた空間で、多くの人々と共に音楽を楽しむことができる。

人々の心を揺さぶる感動
A-sax Yoneさんの演奏は、時に観客の涙を誘うほど人々の心を動かします。特に、誰もが知る名曲をサックスの音色で表現することで、聴衆は共感し、それぞれの思い出や感情と結びつけて感動を覚のではないでしょうか。
*共感を呼ぶ選曲:幅広い世代に愛される楽曲を演奏することで、多くの人が「自分のための演奏」だと感じられる。
- [ ]予想外の出会い:路上での演奏は、偶然通りかかった人々にとって、予期せぬ感動との出会いとなります。

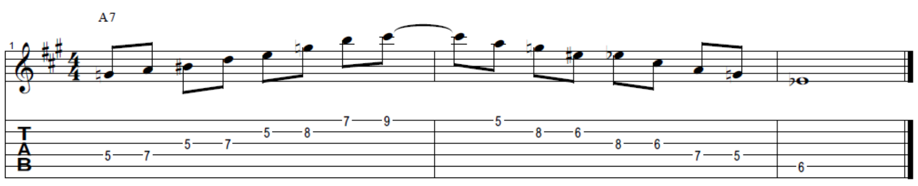
ここまで解説してもらうと照れくさいものですね。

▲A-sax Yoneさんの歌うStreet Sax

連載94 Course: Addicted to Guitar
ブルースセッション　ペンタ+ホールトーン　その1

Nagase Susumu
ブルースロックピン芸人:永瀬 晋

いつもお世話になっております。今回もブルースセッション対策でマイナーペンタを掘り下げていきましょう。前回はマイナーペンタトニック(ブルーノートスケール)+b5を「露骨にb5で伸ばす」に使うというスケールアウト寄りの方法をご紹介させていただきました。今回は更にアウト感を出す手法のご紹介。使うスケールは初登場の「ホールトーンスケール」です。名前のとおり音の並びが全音間隔(2フレット分)でパターン化しておりまして、順番に弾くだけでもいい感じに浮遊感が生まれます。着地点だけ気を付ければ非常に気楽に使えますね。では譜例のご紹介。KeyはAのブルースを想定して、A7一発でいきます。フレーズの初めはマイナーペンタの上昇から始まり、1小節目4拍目のウラからホールトーンスケールがスタートします。構成音 は1弦9F(M3)、1弦5F(Root)、2弦8F(7th)、2弦6F(#5)、3弦8F(#11)、3弦6F(M3)、4弦7F(Root)、4弦5F(7th)、5弦6F(#11)といった感じです。(着地点の数合わせのために(2nd)の音は取ってしまってます(もはや順番ではなくなってますが)。こういったフレーズは伴奏を鳴らさないと全くイメージがつかめないと思いますので、是非伴奏を鳴らしながらチャレンジしてみてください!ハマるとやばい沼のようなスケールです。こんな感じでブルースは何でもありなジャンルですので、是非色々おためしくださいませ!というわけでまた次回!



特別寄稿　Conversations　音楽談議/オーディオ談議

今回は余談で音楽ではなく私自身のこと

Nakagawa Yukihisa
チェリスト:中川 幸尚

私はずっと大陸に出て行ってグローバルでおっきな世界でやっていきたいという願望が学生時代からありました。結果お誘いがあり、まず日本を出るためにタイへ行くことを選択しました。当時日本ではフリーの音楽家としては結構稼いでいた方で、年間休日は数日。。という生活でした。その日本での仕事と収入を全て放棄して年収が日本時代の1/3以下になることを承知でタイに行くことを決断したのは必然でした。最初はタイの国立大学であるマヒドン大学の音楽学部(マヒドン大学はタイの名門。しかし音楽学部はまだ歴史の浅い学部でした)の付属の音楽学校の講師としてタイに渡りました。日本を出た時は「もう日本には戻らない」というつもりで日本を出ました。私という人間は何故か順風満帆にいってるとその生活を「ポイっ」ってリセットしたくなる性分で、日本でのキャリアや仕事全部捨てて海外に出たのは実は人生2度目のリセットでした。1度目は大学の農学部時代、大学院も決まってて研究内容も認められてたのに「ポイっ」って捨てて音楽の道に方向転換した時でした。この時も周囲のほぼ全ての人からの猛反対にあいながら決めたことは変える気はなく突き進んだのでした。それが良かったのかは決して答えは出ないだろうけど「決めたことには後悔しない」をモットーにしてるので正しかった。と思っています。2度目のリセットは私にとって最高の決断だったと思っています。バンコクに行ったおかげで今の私がある。と確信できるからです。結構頑固な性格なのでバンコクに渡ってからも大学の音楽学部長とソリが合わなくてよく揉めた挙句「クビ」になってしまったのですが、結局そこの大学を辞めたことは私にとってはその後の「満たされた音楽生活」のために良かったと思います。

結局ずっと周りの人たちに拾われ、助けられ、与えていただいてきた人生でした。だから「与える事ができる存在でいたい」という思いが今につながっています。

▲満たされた海外での活動

ソウリーヴ・ミュージック・スクール
SouleaveMusic School
http://souleave-music.com/
元住吉駅徒歩3分、武蔵小杉駅徒歩13分
チケット制 音楽教室 Tel 044-750-8992
レッスンは8:00～22:00開始迄、詳細は要連絡

MOTTON CLUB
♪♪掲載登録アーチスト募集中!!♪♪
全国のミュージシャン、および音楽活動に関わる人をネットワークし、そして演奏の場を創り、ライブと楽曲の発信活動の後押し、が目的です。元住吉から世界に向けて配信しています。
演奏者の方々で「モットンクラブ」から配信希望の演奏動画も募集しています。
（近郊で企画、運営可能なスタッフも募集中）